

オリジン

日本農業新聞

発行 宮城県農業協同組合中央会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-16 Tel.022-264-8245

オリジン…稲の学術名「オリザ・サティヴァ」に、人を意味する「ジン」を合わせました。

随時更新! HP: <http://www.ja-mg.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/ja.miyagi.chuokai/>

農業者の所得増大と生産拡大、地域活性化へ進む「JA自己改革」

JA宮城中央会 会長 高橋 正

平成29年6月30日に、JA宮城中央会会長に就任した、高橋正です。

農業をめぐる情勢はかつてないほど厳しい状況にあります。30年産以降の米生産調整への対応や国際貿易交渉の不安と懸念、農協改革への対応など、生産現場とJA経営に直結する大きな課題が山積しています。

中でも、規制改革推進会議の提言に端を発した「農協改革」は、信用事業の譲渡や代理店化のみならず、准組合員の利用規制導入についても、今後の農協改革の実行状況調査等を踏まえて判断することなどが提起されています。

JAグループ宮城は、「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」そして「地域の活性化」に向けたJA自己改革を断行し、組合員とJAが共に前へ進む協同活動に取り組んでまいります。

県内JAでは、本号で紹介するとおり、現在自己改革を進めており、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



県内JAの自己改革の取り組み

JA岩沼市

「らくちんGO!」が活躍中

JA岩沼市は、利用者ニーズに対応したサービスを提供し、生活インフラ機能を果たすJAの役割を高めるため、高齢者向けの無料送迎サービスを行っています。JA組合員のうち70歳以上は4割以上を占めており、貯金・共済の手続きのためにJAに行きたくても車の運転ができない人を支援します。

「らくちんGO!」と名付けた専用車両を平成28年7月に1台導入し、70歳以上を対象に自宅から本店までドアツードアで送迎、運行は、祝日とJA休業日を除く月々金



地域のインフラとして活躍する「らくちんGO!」

JA仙台

農作業支援隊が発足

JA仙台は、農業者の高齢化に伴う耕作放棄地の増加に対応するため、平成29年度から本店営業農経済推進部に農作業支援隊を設置し、7月から農作業支援事業に取り組みしています。

同事業では、耕作放棄地の増加が顕著にみられる中山間地をはじめ、管内全域で「高齢で力仕事に難しい」「繁忙期で人手が欲しい」といった組合員を対象に、職員を派遣。水田畦畔草刈り作業や、有害鳥獣対策（防護柵の設置）作業等を実施しています。

窓口は各営農センターに設置し、組合員からの作業依頼を随時受け付けています。JAは、高齢組合員の農作業支援を通じて、耕作放棄地の解消及び環境整備に尽力し、農業所得の増大と農業生産の拡大を図ります。



依頼を受け畦畔の草刈り作業をする農作業支援隊(9月、仙台市岩切)

- 県内JAの自己改革の取り組み (1、2、3、4面)
- 県北部地域JA合併推進協議会が発足 (5面)
- 「だて正夢」のロゴデザイン決まる (5面)
- JA代表者要請集会 (5面)
- プレゼントクイズ (5面)
- 特集 第11回全国和牛能力共進会宮城大会 (6、7、8面)



みんなのよい食プロジェクトとは、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家とJAグループ、消費者、協力会社・団体のみならず、みんなで一緒に考えて、行動していく運動です。

名誉賞は種牛が大分県、肉牛が宮崎県



第11回全国和牛能力共進会 宮城大会

総合1位は 次回開催地の鹿児島県

第11回となる今大会は、過去最大の39道府県から、選ばれた和牛527頭が一堂に会し、「種牛の部」と「肉牛の部」、「復興特別出品区」で改良の結果と優秀性を競い合いました。

全9区の上位入賞ポイントで競われた「出品団体表彰」の首席は、9つの区のうち4つの区で優等賞1席を獲得した鹿児島県が受賞しました。結果が会場に伝わると、鹿児島県勢のバンザイの声が鳴り響きました。3連覇を狙った宮崎県は2位で、3位には大分県が選ばれました。

また、名誉賞（内閣総理大臣賞）には、「種牛の部」で第4区（系統雌牛群）優等賞1席の大分県・豊肥和牛育種組合、「肉牛の部」は第8区（若雄後代検定牛群）優等賞1席の宮崎県が輝きました。今大会でも九州勢の強さが際立ちました。

今大会では、「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」をテーマに掲げ、和牛振興PRや観光・特産品PR、イベントコーナーも充実させました。また、被災地の復興エリアを設けました。

次回の全共は、9年後の2022年、鹿児島県で開催されます。

席の大分県・豊肥和牛育種組合、「肉牛の部」は第8区（若雄後代検定牛群）優等賞1席の宮崎県が輝きました。今大会でも九州勢の強さが際立ちました。

今大会では、「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」をテーマに掲げ、和牛振興PRや観光・特産品PR、イベントコーナーも充実させました。また、被災地の復興エリアを設けました。

次回の全共は、9年後の2022年、鹿児島県で開催されます。



全国の代表者が一堂に会した開会式



大舞台上での審査に臨む代表者と出品牛

全国からの復興支援に感謝

震災復興エリアでは、東日本大震災で被災した地域の復興の様子や支援への感謝の気持ちを、パネル展示等を通じて表しました。

また、被災企業の物販や、災害科学科を設置している宮城県多賀城高等学校による防災等の取り組み事例紹介なども行われました。



東日本大震災からの復興状況を伝えた「震災復興エリア」



被災地からの感謝のメッセージを綴ったパネル

全国の銘柄牛試食に長蛇の列



仙台牛の試食に並ぶ来場者



県内の観光や飲食物をアピールした「宮城県PRエリア」

試食コーナーでは、普段はなかなか食べることのできない全国の銘柄牛が無料で振る舞われるとあって、連日大盛況でした。来場者は、地元仙台牛はもちろん、全国24道県のブランド牛を食べ比べていました。

また、宮城県PRエリアでは、宮城の観光や飲食物をPR、来場者は海の幸・山の幸を堪能していました。

県内JAの自己改革の取り組み

JA加美よつば

契約販売で販路を確保



カボチャの管理状況を確認した現地検討会(6月、加美町で)

JA加美よつば管内で、加工用カボチャの栽培が広がっています。JAは県内外の食品メーカーとの契約販売で販路を確保し、平成27年に約4畝で始まった栽培面積は、3年目の29年になつて、2倍以上の

約10畝まで拡大し、農家数も17人から24人に増えています。取引先は、静岡県鹿島台の食品メーカーや大崎市鹿島台の食品加工メーカーで、契約販売で価格が安定している点に加え、加工のために収穫後の選別、調整が必要なく、労力軽減につながる利点を生かし、JAは作付けを呼び掛けてきました。市場出荷用を含めた28年のカボチャ出荷量は40ト。29年は2倍以上の約80トを目標にしており、このうち50トを契約販売用として出荷します。

JA古川

「担い手課」が本格始動

JA古川は、高齢化による農家の担い手不足を解決するために、「担い手課」を新設しました。担い手育成に努めながら、JA自らが研修用農地を管理・運営しています。同農地では、JAの園芸推進品目であるナスやトウモロコシ、ネギ、エダマメを栽培しながら、新規就農希望の研修生とともに実践的な研修を行っています。



畝たてマルチ作業をするJA職員(5月、大崎市で)

担当職員は「収穫を迎え、課題も見つかった。生産者の立場で播種から収穫まで行うなかで学んだことを今後の担い手支援に生かしたい」と話しました。

JAみやぎ亘理

ICT活用でデータ収集



ICT導入予定のイチゴハウス(亘理町で)

JAみやぎ亘理は、イチゴの食味、収量アップを目指し、いちご団地で情報通信技術(ICT)を活用したデータ収集に乗り出します。JAいちご部会の農家10人のハウスに環境測定装置を設け、温度や湿度の情報を集めます。収量などと照らし合わせて、時期ごとの最適値を把握し、農家間で共有します。今後、データ集めを本格化させ、平成30年8月には1ヘクタールの数値を取りまとめ、営農指導に生かしていく方針です。部会の10ヘクタール平均収量は現在4・3ト。データ収集による技術の平準化によって5トに引き上げる目標を掲げます。情報収集に使うシステムは、インターネット回線につながっているカメラを通じて、パソコンやスマートフォンでハウスの状態を確認できます。成果が得られれば、部会内の導入拡大も視野に入れています。

県内JAの自己改革の取り組み

JA名取岩沼

農事組合法人の発足を支援

JA名取岩沼は、震災で甚大な被害を受けた管内農業の復興を目指し、水田農業が主力の地域特性を踏まえ、法人の組織化や農地集積を推進しています。震災後、農事組合法人など17の組織設立を支援し、農地中間管理事業を通じて、各組織とも水田50〜60畝規模の経営体へ育成。管内の農事組合法人U.M.A.S.Iと農事組合法人志賀は、それぞれ平成29年4月にライスセンターの竣工式を開き、本格稼働しています。また、生産者とJA関係



農事組合法人U.M.A.S.Iのライスセンター竣工式(4月、名取市で)

者が参加する研修会を定期開催し、農事組合法人や担い手の経営安定化、所得向上を目指しています。

JAみどりの

農業法人連絡協議会を設立

JAみどりのは、管内の農業法人で構成する「JAみどりの農業法人連絡協議会」を4月に設立しました。稲作、園芸・畜産を営む41法人が所属しています。JAが事務局となり、農業経営に関する研修会や先進地の視察研修、展示商談会の参加などを計画しています。設立総会では、JAの大坪輝夫組合長が「地域農業の発展に向けて、新たなスタートを切った。事務局機能を充実させ、農業者の所得向上を目指す」と意気込みました。8月には東京ビッグサイ



アグリフードEXPOに出展したJAみどりの農業法人連絡協議会(8月、東京都で)

トで行われたアグリフードEXPOに出展して、来場者に商品などをPRしました。

JAいわでやま

金融移動店舗車が活躍中



金融移動店舗車と車内設備

JAいわでやまは、鴨子支店の金融・共済窓口と鬼首店、真山店の購買窓口に代わる新規事業として、購買店舗併設型金融移動店舗車の運行を、平成29年1月16日に始めました。当管内では、急速に高齢化が進行するなか、高齢者に対するライフライン機能を発揮しています。

車両には金融担当職員2人と購買担当職員1人が乗車。真山・鬼首地区でそれぞれ週2回、鴨子地区では週4回営業しています。貯金の入出金、公共料金や税金の支払いに対応し、共済の取り次ぎ、ローンの相談も受け付けます。3地区にはスーパーマーケットがなく、買い物に困る組合員も多いことから食料品も販売しています。29年度の6月までの1日平均利用件数は34・8件で、利用者からは、「車の運転ができないので助かる」と好評を得ています。

JAみやぎ仙南

重点品目の産地化を実践

JAみやぎ仙南は、農業者の所得増大・農業生産の拡大を目指し、第6次営農プランに掲げる重点品目の園芸振興を実践しています。仙南管内は、気象条件を生かした高冷地から平地までの地域内リリー出荷ができて、プロコリーやタマネギなど長期かつ安定的な産地供給が可能となるよう産地体制を図っています。平成28年度はプロコリーの作付面積が30畝だったのに対し、29年度は32畝を目標に取り組みます。また、タマネギの28年度作付面積は1・6畝だったの対



プロコリーの播種作業を行うJA職員(7月、川崎町のライスセンターで)

し、29年度は5畝を目標に取り組みます。確実な生産拡大へつなげるため、共同利用体制による「プロコリー苗」供給支援や、機械化一貫作業が可能なタマネギの栽培指導により、着実に作付面積や新規栽培者を増やしています。

JAあさひな

コンビニインショップ設置



新鮮な野菜が並ぶ店内(富谷市のセブンイレブンで)

JAあさひなは平成28年11月、管内のセブンイレブんに産直野菜を販売するインショップを設置しました。1日2回、農産物などを納品し、販路拡大を目指します。店内に野菜やJAの特別栽培米などを陳列するコーナーを設置しており、JAのセツ森産直会会員が生産した農産物を24時間購入できます。生産者と消費者の交流も含めて各種イベントも開催しながら、地場農産物をアピールしています。今後も同社と連携し、コンビニエンスストア事業を通じた販路拡大と組合員、地域住民の利便性向上を目指します。

JA葬祭 安心の葬儀 ご葬儀は、安心と信頼のJAへ
JA仙台葬祭センター
JAあさひな葬祭センター
JA名取岩沼葬祭センター
JA古川生活葬祭課
JA加美よつば葬祭センター
JAみやぎ登米葬祭課
JAいしのまき葬祭課

年金のお受取りはJAバンクへ。
JAに年金お受取口座指定で
合計1,000名様に当たる!
期間 平成29年4月1日(土)~平成30年2月28日(水)
JAバンク 宮城

県北部地域JA合併推進協議会が発足

平成31年4月の新JA誕生を目指す

栗つこ、南三陸、いしのみ、連宮城、農林中央金庫から、あさひ、古川、加美よ、の出向者14人を専任職員として、いわやま、みどりのつば、いわたやま、みどりの8JAが参加して7月31日、県北部地域JA合併推進協議会が発足しました。平成30年2月までに合併基本構想を策定、同年10月に各JAが合併総代会を開く予定で、31年4月の新JA誕生を目指します。

大崎市のJAみどりの田尻支店が開いた設立総会では、協議会の会長にJAみどりの大坪輝夫組合長、副会長にJA栗つこの吉尾三郎組合長を連任。事業計画や収支予算などを承認しました。

協議会の事務所はJAみどりの田尻支店内に置き、8JAとJA宮城中央会、JA全農みやぎ、JA共済



合併に向けて事業計画などを決めた設立総会(7月31日、大崎市田尻で)

農家所得向上につながる政策を

与党国会議員招きJA代表者要請集会

JA宮城中央会と県農協政治連盟は9月22日、地元選出の与党国会議員を招き、東京都内でJA代表者要請集会を開きました。平成30年産以降、米の直接支払交付金が廃止されること、現場に不安と動揺が広がっていることから、農家の所得向上につながる農業政策の充実を求めました。JA自己改革は、自主性を尊重し、組織の展望などを強調しないことも要請しました。

JA組合長など26人が東京、自民党の愛知知郎、秋葉賢也、西村明宏、伊藤信太郎、勝沼栄明の5議員と公明党の井上義久幹事長が出席し、明



要請集会であいさつする高橋会長(9月22日、東京都千代田区で)



ロゴデザインを披露する村井知事とJA宮城中央会の高橋正会長ら。左は考案した水口さん(7月10日、宮城県庁で)

「だて正夢」のロゴデザイン決まる

これで天下を取るつまずき！

宮城県期待の水稻の新品種「だて正夢」のロゴデザインが決まり、7月10日に県庁でお披露目されました。「だて正夢」は今年、県内約50万畝で試験栽培されており、出荷が始まる今秋からロゴをあしらった米袋で販売します。

デザインは東京都のデザイナー、水口克夫さんが考案。五穀豊穣を表す、米俵をモチーフに、大地(紫)と恵みの雨(青)↓収穫(黄)↓祝祭(赤)の4つのイメージで構成されています。水口さんは「これを見て、生産者にもっといい米を作ろう」と思ってもらえれば幸いです」と語りました。

村井嘉浩知事は「斬新でインパクトのあるデザインで大変満足している。『だて正夢』が4番バッターとなり、県産米の価値をさらに高めていきたい」と語りました。

プレゼントクイズ

「農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けて、JAは自己〇〇に取り組んでいます」

〇に入る漢字を記入のうえ、JA宮城中央会営農課へはがきまたはEメールを送ってください。正解者の中から抽選で20名様に、宮城が誇るブランド牛「仙台牛(牛まきやき、しゃぶしゃぶ用)〇〇〇円相当」をプレゼントします。当選者の発表は、発送をもって代させていただきます。

◇

はがきまたはEメールに、①答え②あなたの住所③氏名④年齢⑤電話番号⑥所属JA⑦オリジンへのご意見、ご感想を、明記して下記のとおり先までご応募ください。個人情報保護をレシート発送以外の目的には使用いたしません。

※イメージ写真

〒980-0011 仙台市青葉区上杉1丁目2-16
JA宮城中央会営農課
みやぎ広報「オリジン」100号係。
はがきまたは
Eメールjapre@ja-mg.or.jpでご応募ください。

締め切り 平成29年12月11日(月)必着



〇よい食P

県内JAの自己改革の取り組み

JA栗つこ

多収穫米の専門部会を設立

JA栗つこは、業務用米の需要に対応するため、「多収穫米生産部会」を設立し、多収性品種「萌えみのり」の増産に力を入れています。契約栽培で売り先を確保した

JA栗つこは、業務用米の需要に対応するため、「多収穫米生産部会」を設立し、多収性品種「萌えみのり」の増産に力を入れています。契約栽培で売り先を確保した

うえて多収とコスト低減を追求し、農家の所得増大に努めています。

平成28年度の移植栽培では、JAが独自に開発した従来の2倍の窒素成分を含む肥料が奏功し、10アール当たりの平均収量は約6300kgとなり、同690kgを超える農家も出てきています。また、疎植栽培の取り組みにより、10アール当たりの苗箱供給も6割程度に抑えることができ省力化が図られました。29年度以降は密苗栽培の実証試験を行いながら、同品種を500アールまで拡大する計画です。



順調に生育する「萌えみのり」の圃場(8月、栗原市で)

JA南三陸

ブランド化支援で所得増大へ

JA南三陸は、農業者の所得増大に向けた園芸作物のブランド化を進めています。ブランド化を進めるのはネギ、トマトなどの園芸作物。これらの園芸品を栽培する法人の支援を行っています。

JAは、管内のネギの作付面積が平成28年度で10haだったのに対し、29年度は12haを目標に作付けの推進に取り組んでいます。

また、JAがトマト栽培を支援する法人「(株)サンフレッシュ小泉農園」では、28年度の収量10アール当たり27kgに対し、29年度は同30kgの生産を目標にしています。

3月には気仙沼・南三陸地域園芸振興大会を開いて、生産者やJA役員、行政担当者が園芸振興やブランド化に向けた情報を共有しました。今後は復旧農地の引き渡しが一層進むことから、園芸品目作付拡大に対する関係機関の期待が膨らんでいます。



関係者が情報共有した園芸振興大会(3月、気仙沼市で)

JAみやぎ登米

県内初の農業金融センター設置

JAみやぎ登米は、平成29年4月27日に、本店敷地内に県内初となる「農業金融センター」を新たに設置しました。

同センターの主な業務は、認定農業者や農業法人等への経営相談や融資相談の窓口です。訪問活動を通じて、積極的な情報提供と提案を行い、担い手農業者等へのサポートを実施します。

榎原勇組合長はオープン直後「当JAの自己改革の取り組みの一つで、県内初の施設になる。形態が変わる地域農業に対して、しつ

かりと資金面等でバックアップができるように、役割を果たし頑張りたい」と期待を込めました。



農業金融センターの開所式(4月、登米市迫町で)

JAいしのまき

米の輸出販売に先駆け試食会

JAいしのまきは、米の輸出拡大を図るため、全農みやぎや木徳神糧株式会社と連携し、平成29年7月20日にシガポールでいしのまき産ひとめぼれの試食会を開催しました。

試食会には米卸業者や現地メディア等70人が来場しました。JA職員がいしのまき産米の紹介と真空包装のメリットについてプレゼンテーションを行い、現地の食に詳しいシェフが米をメインに使った料理を振る舞いました。

また、輸出来の国際認証「GAPアドバンス」の団体認証を目指す取り組みも開始。30年産米からの認証取得を目指します。輸出来を生産する農家と協力し、マニュアル作りや生産現場の把握を進め、29年度内に団体組織を設立します。



現地での試食会(7月、シンガポールで)

いろいろな「もしも」に備える安心、一緒に養って、走りませんか?

フルマスタ
自動車共済

自動車の事故による賠償やケガ、修理に備える

★安心の発生保証	★ご自身とご家族の保障	★お車の保障
<ul style="list-style-type: none"> 借主貸主の保障 自動車事故により他人を傷つけた場合、他人の車や物をこいたときの賠償を幅広く保障! 対人賠償(無制限) 対物賠償(無制限・対物賠償補償費用特約) 	<ul style="list-style-type: none"> ご自身とご家族の保障 自動車事故によりご自身やご家族のケガや死亡、後遺障害を幅広く保障! 人身傷害(無制限) 傷害補償(無制限) 	<ul style="list-style-type: none"> お車の保障 ご契約のお車の事故による賠償や盗難、自損などによる損害を幅広く保障! 車両損害(全損補償特約) 車両盗難(全損補償特約)

★お得な料金プラン

自動車損害賠償責任(自賠責)	自動車損害賠償責任(任意)	自動車損害賠償責任(任意)
1日あたり365円	1日あたり700円	1日あたり1,000円
1日あたり365円	1日あたり700円	1日あたり1,000円

- お問い合わせは
- JA 仙 台 022(236)2425
 - JA みやぎ亶理 0223(34)0377
 - JA 岩 沼 市 0223(22)1257
 - JA 名 取 岩 沼 022(384)5113
 - JA あさひな 022(345)1274
 - JA みやぎ仙南 0224(55)1288
 - JA いしのまき 0225(22)1116
 - JA 加美よつば 0229(66)1178
 - JA 古 川 0229(23)6517
 - JA いわてやま 0229(72)0015
 - JA みどりの 0229(87)3342
 - JA 栗 つ こ 0228(23)2117
 - JA みやぎ登米 0220(22)8113
 - JA 南 三 陸 0226(47)4584

JA共済連宮城 ☎0120-14-9031



2区で登米市の小野寺 正人さんが日本一!

4区で優等賞5席に入賞したみどりの和牛育種組合の代表者と出品牛



5区で優等賞4席に入賞しパレードで行進する、栗原和牛育種組合の代表者と出品牛

第4区（系統雌牛群）では、みどりの和牛育種組合が優等賞5席に入賞しました。

頭の1群が出品されました。第4区の出品条件は、父方・母方の双方から出品系統の遺伝子を受け継いだ雌牛とさ

れ、過去の大会以上に系統の再構築が求められました。みどりの和牛育種組合の永沼哲士組合長は「生産者やJA

第4区 みどりの和牛育種組合 「肩付賞」を受賞

第5区 栗原和牛育種組合 「体積・均称賞」を受賞



栗原和牛育種組合の菅原三郎組合長は「何事も準備が大切。5年後の鹿兒島大会に向けて、若手には先進地の視察などで経験を積んでほしい」と次回大会への思いを語りました。

第5区（繁殖雌牛群）では、栗原和牛育種組合が優等賞4席に入賞し、出品群の体の大きさやバランスが取れている点が評価されて特別賞の「体積・均称賞」も受賞しました。

Aなどの関係機関が一丸となり努力した成果が上位入賞という形で表れた」と関係者に感謝しました。

今 総合4位

復興特別出品区

柴田農林高等学校が

ひ号を出品。日々続けてきたブラッシングによる毛並みを自信に、日本一を目指して今大会に臨みました。「ゆうひ」号の世話をメインで行ってきた同校3年生、平間大貴さんは、結果が分かるまで悔しがりながら「1位を取りたかった。しかしやれることはやってきた」と思いを述べました。



総合4位に入った柴田農林高校の生徒と「ゆうひ」号



第11回全国和牛能力共進会 宮城大会

宮城県勢が躍進！総合4位に



2区で優等賞1席を獲得した小野寺さんと「さいぜんれつ」号



開会式に臨む宮城県の代表者ら

第11回全国和牛能力共進会宮城大会が、9月7日から11日にかけて仙台市の夢メッセみやぎと仙台市中央卸売市場食肉市場で開催され、宮城県勢が道府県別による団体表彰で過去最高の4位に入りました。宮城県勢は9区分中8区分で入賞を果たすなど、大きく躍進しました。今大会での活躍で、「仙台牛」を全国にアピールしました。宮城県勢の結果は一覧表（下）のとおりです。

宮城県勢 全共結果一覧

出品区	成績	地域	出品者	出品牛
1区	7席	大崎市	県畜産試験場	勝美桜1
2区	1席	登米市	小野寺正人	さいぜんれつ
	11席	栗原市	菅原一研	ゆりよし
3区	4席	大崎市	熊谷良太	さくら76
			山谷恵一	かなえ
4区	5席	大崎市	佐藤和也	あさこ
			後上孝行	かつみ
			高橋則夫	みか
			兵藤浩	ゆりしげ3
5区	4席	栗原市	岡本正宏	おかしげ
			千葉たぢ子	なえの2
6区	5席	登米市	田中豊	ゆいこ
			衛NOA	おくひら
7区 (種牛群)	6席	白石市	服部泰啓	しげひら
			佐々木昌典	よしひら
7区 (肉牛群)	6席	大崎市	小室富義	なつひら
			境野和博	はな
9区	25席	登米市	菅原公考	ゆり
			加藤幸一	あさこ
高校生部	3席 (総合4位)	大原町	金野康	登米牛
			高橋猛	咲花

2区（若雌の1）では、登米市の小野寺正人さんが日本一の優等賞1席を獲得しました。宮城県勢が区分の首席を獲得するのは初の快挙です。10日の比較審査で、小野寺さんと「さいぜんれつ」号がトップの位置に向かい、等級が決定されると、観覧席の宮城県勢は大きく沸き立ちました。審査では、「さいぜんれつ」号の体積が十分であり、種牛性も兼ね備えている点などが高く評価されました。小野寺さんは、前回の長崎大会では同区で優等賞5席。そこから日本一を目指して日々研鑽を重ねてきました。小野寺さんは「受賞したときはとても驚いた。ご協力いただいた皆さんの力があつたからこそだと思う。宮城の和牛を確立できた」と喜びました。